

半世紀後の道東ツアー

宇敷 辰男

私が学生の時、父が札幌に赴任したので、休みの度に友人を誘って北海道を旅して廻った。半世紀の時間が経ち、旅行は暖かい西や南へ足が向くようになっていた。

久々に道東の旅行パンフレットを手に入れて見た。その中に、

一日目、羽田↓帯広↓裏摩周展望台↓神の子池↓屈斜路湖畔泊、

二日目、オンネトー↓タウシユベツ川橋梁↓旧幌加駅跡↓糠平温泉泊、

三日目、タウシユベツ展望台↓然別湖の湖底線路↓広尾の緑の海岸↓帯広↓羽田、

という二泊三日のコースがあった。この中で昔行ったのは、摩周湖と屈斜路湖、オンネトーと然別湖だ。

摩周湖を最初に訪れたのは昭和四〇年代「霧の摩周湖」が流行った頃で、幸い霧が晴れ神秘の湖を望むことが出来た。その後何度も訪れ、中学の友人と苺シロップ持参で冬晴れの摩周湖を見ながら雪を食べたこともある。

青く澄んだ小さな湖オンネトーで、従兄弟と温泉の湧く宿に泊った。湯舟にお盆を浮かべ徳利とお猪口を載せて一杯飲んだら、血が巡って一気に酔って目が廻った。

森に囲まれた然別湖で小学校の友人とボートを借りて漕ぎ出した。澄んだ湖水の深さを見ようと白い目印を静かに沈めると恐い程の透明度に仰天した。

今年二月、高校の友人からタウシユベツ川橋梁を観てきた写真が届いた。帯広から北に延びる土幌線は昭和六十二年廃線になっているけれど、調べると昭和三十年にダム建設で出来た湖の中に橋梁が残された。

雪解けで糠平湖が増水し、橋梁は六月には沈みはじめ、八月〜十月頃湖底に沈む。秋の終わりに湖面は最高となり、十二月には凍り始める。電力需要の多い冬に放水で水位が下がりだすと、水没した橋梁が凍結した湖面を割って一月頃姿を現わす。

橋梁を展望台から眺めることもできる。でも分厚い氷の湖上を渡れば、アーチ橋が雪原の白と冬の晴天の青に映えた景色を見ることが出来る。

一度行ってみたくらいと思っただけけれど、一番の見頃は冬なので、どうも足は暖かい旅先に向かいそうだ。

